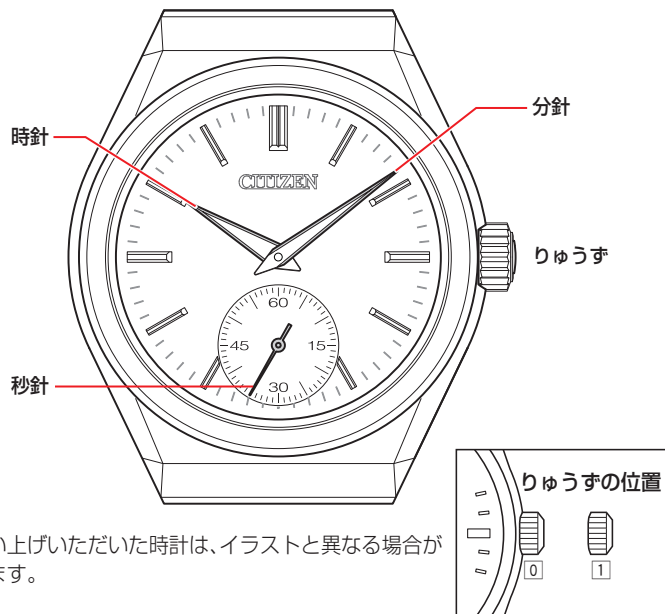


仕様 / 操作の詳細は、Webマニュアルをご参照ください。 <https://citizen.jp/support/guide/html/0200/0200.html>

各部の名称



お買い上げいただいた時計は、イラストと異なる場合があります。

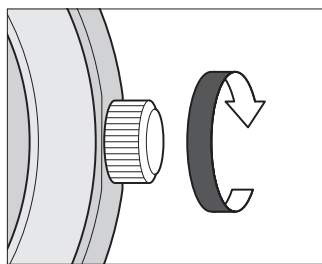
ぜんまいを巻き上げる

この時計は、ぜんまいを原動力とする機械式自動巻時計です。時計を腕に着けていると、腕の動きによって、時計内部の回転錘(おもり)が動き、ぜんまいが自動で巻き上げられます。

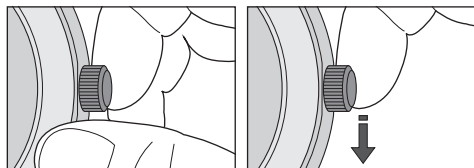
- 腕の動きが少ないと、ぜんまいが十分に巻き上げられません。時計をできるだけ長時間腕に着けていただくか、時計を着ける前に手動でぜんまいを巻き上げることをおすすめします。
- 腕から外すと2~3日でぜんまいの力がなくなり止まってしまう。

ぜんまいを手で巻き上げる

- リューズの位置を0にする
- リューズを親指と人差し指でつまんで、右にゆっくり回す



リューズの下側を指の腹で下方向にこするようにしても、リューズを回すことができます。



- 時計が止まった状態から、リューズを約45回転させると、ぜんまいが十分に巻き上げられた状態になります。
- ぜんまいが十分に巻き上げられると、時計は約60時間動きます。
- ぜんまいが十分に巻き上げられた状態からさらにリューズを回しても、ぜんまいが切れる心配はありません。

時刻を合わせる

時刻を合わせる

- 秒針が0秒を指しているとき、リューズの位置を1にする
秒針が止まります。
- リューズを回して時刻を合わせる
・リューズを回すと、時針、分針が連動して動きます。
- 時報に合わせて、リューズの位置を0にして終了する

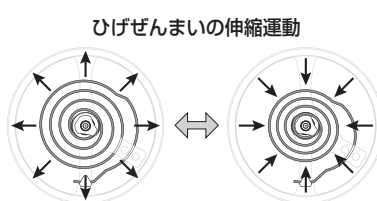
機械式時計について

機械式時計の精度は、次の使用条件などに影響を受けます。

ぜんまいの巻き上げ量	機械式時計は、ぜんまいが十分に巻き上げられた状態で、最も安定した精度を維持することができます。
姿勢	機械式時計の精度は、重力の影響を受けて変化します。身につけているとき、時計はさまざまな姿勢(向き)になるため、重力の向きが刻々と変わり、精度に差が生じます。
温度	機械式時計は、精度を制御する部分に金属部品が使われているため、温度変化による金属の膨張収縮やばねとしての性質の変化の影響を受けて精度に差が生じます。 * 本時計は+8℃~+38℃の温度範囲でお使いいただくのをおすすめしております。
磁気	機械式時計は、金属の部品を使用しているため、磁気の影響を受け、精度に差が生じます。時計の精度を保つためには、強い磁気が発生するものに近づけないようにしてください。
衝撃など	強い衝撃や連続した振動を受けた場合も精度に差が生じます。

身の回りの磁気にご注意を

機械式時計の内部で、特に時間の精度に関わる部分が「てんぷ」という部品です。てんぷ内部には、非常に薄くて細い小さなぜんまい(ひげぜんまい)があり、これが一定の時間間隔で伸び縮みすることで、機械式時計の精度が保たれています。



時計のごく近くに、強い磁気を発するものがあると、ひげぜんまいの伸縮運動に乱れが生じてしまうため、時計全体が大きな影響を受けてしまうのです。

身の回りにある強い磁気を発するもの

ノートパソコン、スマートフォン、タブレット、タブレットのカバー、スピーカー、イヤホン、ヘッドホン、バッグの留め具、冷蔵庫のマグネット式ドア、磁気健康器具

いずれの機器も、時計から少なくとも5 cm以上離しておくようにしてください。